

平成27年度自己評価シート(中間評価)

校番	121	学校名	広島県立大崎海星高等学校	校長氏名	大林 秀則	全・定・通	<input checked="" type="checkbox"/> 本・分
----	-----	-----	--------------	------	-------	-------	---

学校経営目標							
達成目標		本年度行動計画		評価	理由	担当部等	
1 学校の魅力化を推進し、地域の期待に応える教育活動を展開するとともに、学校の情報を積極的に発信する。							
①中高連携を推進している。		<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事(体育祭・文化祭等)における生徒の交流を活性化させる。 ・部活動における交流(合同練習等)を積極的に取り入れる。 ・相互の教育相談(高校教員による中3生への進路相談, 中学校教員による高1生へのカウンセリング)を実施する。 ・相互の授業参観を実施する。 		A	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭や体育祭など, 交流できるものを考え, 積極的に交流できている。 ・数学・英語の出前授業, 中3生への進路相談など取り組みが充実している。 ・部活動の交流も盛んである。 	全校	
②地域学習「大崎上島学」を実施し、地域に誇りを持ち、地域に貢献する生徒を育成している。		<ul style="list-style-type: none"> ・「大崎上島町幼小中連携プロジェクト」との連携のもと, 既習事項と関連付けながら系統的な学習となるよう配慮し実施する。 ・「大崎海星高校魅力化推進チーム」ミーティングにおいて, 実施後の評価と課題の整理を行うとともに, 平成28年度から, 各学年1単位を付与し独立した科目として展開できるような計画を作成する。 		B	和太鼓体験(1年), 海洋体験(1・2年)を実施した。リサーチⅢ(3年)では「大崎上島学」を含め, グループで卒業研究を行っている。	教務部 リサーチ担当者	
③教育活動等について積極的に情報発信している。		<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報誌を年間11回以上発行し, 地域及び島内中学生等に配布する。 ・HPの更新回数を増加させる。 ・学校案内(パンフレット)を広域に配布する。 ・町広報の活用など, 島内への情報発信の方法を工夫する。 ・マスコミへの情報提供も含め, 広域への情報発信の方法を工夫する。 		A	<ul style="list-style-type: none"> ・海星だよりを4月から続けて5号発行した。 ・HPを刷新し, これまでの更新回数は, 45回となり年間目標25回を大幅に上回った。 ・学校案内を大崎上島中学校の3年生の生徒・保護者及び教職員に配付した。また, JR呉線沿線5中学の3年生にも学校訪問の際配付した。 ・海星だより特別便として, 文化祭のある6月及び体育祭のある9月に町広報の折り込みとして挿入し, 全戸配布した。 ・公営塾の取組等について, テレビ, 新聞で取り上げられた。 	教務部 進路指導部	

【評価結果の分析】

・6月に行われた中学校の運動会において本校のソーラン部が演舞を披露した。生徒アンケート「ソーラン部が運動会で演舞したことで盛り上がった」の項目の肯定的評価の割合は80%, 「大崎上島中学校と大崎海星高校の連携が強まった」の項目の肯定的評価の割合は80%であった。また, 9月に実施した本校の体育祭に中学生が参加した。生徒アンケートには「ものすごく楽しかったですし, 面白い競技でしたので海星高校に入学したらまたやりたいです。」「自分の運動会以来でみんなについていくのに必死だったけど楽しかった。」など肯定的な感想がほとんどであった。

・6月に実施した本校の文化祭では, 中学校と本校の茶道部が合同でお茶席を設けた。実施後のアンケートには, 中学生と高校生が協力してお茶を出し入れたことで, とても楽しく参加することができたと回答している。

・5月に中学校教員による高1生へのカウンセリングを実施した。生徒アンケート「カウンセリングは, あなたにとって有意義でしたか」の肯定的割合は95%であった。

・中学校への数学・英語の出前授業は, 「分からないところがあっても, ゆっくり確実に教えてくれるところが本当に助かります。」等肯定的な評価が大半である。生徒アンケート「授業を受けて, 自分からすすんで勉強しようという意欲が高まった。」の項目の肯定的評価の割合は, 数学68%, 英語は59%, 「授業を受けて, 大崎海星高校で学びたいという意欲が高まった。」の項目の肯定的評価の割合は, 数学76%, 英語は72%であった。

・大崎海星高校魅力化推進チームは, 9月末現在で18回のミーティングを行い, 学校の魅力化に向けた34の施策の実施に向けて, 内容の検討や進捗状況の報告を行った。

・「大崎上島学」の内容づくりに向けて, 今年度より和太鼓体験(1年), 海洋体験(1・2年)を実施した。生徒アンケートにおける肯定的評価の割

合は、「和太鼓体験を通して地域の伝統文化のすばらしさを感じることができた。」の項目では 76.9%、「海洋体験を通して地域の自然のすばらしさを体感することができた。」の項目では 86.8%であった。

・海星だよりについては、4月号、5月号、6月号、7・8月号、9月号を発行した。月によっては行事の数に差があるため、毎月の発行には至っていないが計画的に実施できている。

・今年度 HP を刷新した。更新回数が 45 回となり、目標値を大きく上回った。また、「HP 更新週間」を設定し、部活動を中心に年3回の更新を行うようにした。また、公営塾や全国募集等学校の魅力化に向けた取組についてもアップしているため、更新回数が目標値を大幅に上回っている。

・今年度の学校案内は昨年度 3 学期に 1,000 部作成し、4 月以降随時配布している。大崎上島中学校については、5 月 20 日進路説明会時に中学校教職員、3 年生及び保護者に配布した。また、7 月下旬には近隣の中学校である竹原中学校、吉名中学校、安芸津中学校、忠海中学校、豊浜中学校を訪問し、学校案内と公営塾パンフレットを配布し、PR を行った。その訪問により、現在のところ竹原中学校では個別の進路説明会の実施に至っている。

・文化祭・体育祭の周知も含め、学校の取組を島民に知ってもらう目的で、「海星だより」特別便を、6 月・9 月に町広報に差し込み、島内全戸に配布した。文化祭・体育祭のアンケートでもその効果が大いことがわかった。また、安芸津港、竹原道の駅にも置いてもらい、島外の方にも情報を発信している。

・公営塾「神峰学舎」の開所式が、テレビ 2 社、新聞 1 社で取り上げられるとともに、その後の継続的な取材につながり、戦略的な情報発信を図ることができた。また、本校の HP 上でも最新の情報を早期にアップすることにより、リアルタイムな情報提供に努めた。全国募集についても HP に特設コーナーを作成し、関係者の協力を得ながら、あらゆる方法での情報拡散を行っている。

【今後の改善方策】

・和太鼓部の演奏を 11 月 14 日(土)に開催される中学校の文化祭で披露する予定である。中学生にとって大崎海星高校が身近な存在と感ぜられるように取組を進める。

・10 月には高校教員による中3生への進路相談を実施する。高等学校の視点から中学校の学習の大切さを理解させ、中学生の学習意欲を高めるとともに、高校卒業後の進路をアドバイスすることで、将来を見通した進路指導を行う。

・学校の魅力化に向けた 34 の施策は順調に実施できているが、魅力化推進チームミーティングで施策の課題を明らかにし次年度につなげる。

・平成 28 年度入学者から、総合的な学習の時間を各学年 2 単位とし、そのうち 1 単位を「大崎上島学」として展開する予定である。内容づくりに向けて、先進校の取組を参考にしながら本校独自の教育内容をつくる。

・海星だよりを出来るだけ翌月の早い時期に作成、配布し、よりリアルタイムな情報を発信したい。その為にも各月の行事を確認し、生徒の活動写真や感想などを集約できるようにする。

・HP の更新回数は年度当初の目標値を上回ったが、これからも行事や生徒の活動がある度に更新を続けていく。ネットワークの管理、分掌の所掌業務の見直しも含め、効率的な情報発信に向けた校内の組織体制を再考する必要がある。今後は来年度のことを見据えて HP 更新の引き継ぎを行い、複数名がこの作業に関われる体制作りが必要である。

・今後全国募集に向けて、より多くの方に学校の魅力を知ってもらうために、情報発信の方法を検討する必要がある。また、関西圏、首都圏以外においても、ニーズがあると思われる地域をしばり、焦点化した生徒募集を行っていく。

・町広報を通じた情報発信に一定の成果はあったが、町内放送の活用も含め、より有効性の高い方法を検討する。

学校経営目標					
達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部等	
2 特別支援教育の視点に立った組織的な授業づくりを推進し、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、知識を活用し協働して新たな価値を生み出そうとする意欲を持つ生徒を育成する。					
①生徒指導の三機能を生かした授業づくりを推進することにより、生徒の自己肯定感が高まるとともに、生徒は基礎的な知識及び技能を習得している。	<ul style="list-style-type: none"> すべての授業において、「目標の板書」「振り返り」を実施する。 教育センターのサテライト講座を活用し、生徒指導の三機能を生かした授業づくりについて、研究・実践する。 個別の指導計画に基づいた実践を行い、学期毎に評価・改善を図る。 三原特別支援学校大崎分教室との連携を深める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業評価アンケートにおける肯定的評価の割合は、平成 26 年度の実績値を上回っている。 サテライト研修講座 I・II 期を受講し、研究・実践している。 	教務部 各教科	
②能動的な学びを推進することにより、生徒の主体的に学ぶ態度が育成されている。	<ul style="list-style-type: none"> アクティブ・ラーニングについて研究し、授業へ積極的に導入する。 ICT を積極的に導入する。 ICE モデルの研究を通して、ICE モデルを活用した学習指導案を作成し、実践する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 5 月の互見授業週間では全教員が ICE モデルを活用した学習指導案を作成し、情報交換を行った 	教務部 各教科	

【評価結果の分析】

・7月に実施した授業評価アンケートにおける肯定的評価の割合は、「授業では、「本時の目標」が板書されている。」の項目では 91%、「授業では、「振り返り」の時間がある。」の項目では 85%であった。また、「授業を受けて、やればできるという意欲が高まった。」の項目では 76%であり、

平成 27 年度の目標値を上回っている。

・今年度は教育センターのサテライト講座を活用し、生徒指導の三機能を生かした授業づくりについて、研究・実践した。6 月 11 日には「生徒指導の三機能を生かした授業づくり」を研究テーマとした公開研究授業を実施した。

【今後の改善方策】

・一方的な講義型の授業展開ではなく、双方向型(教師と生徒、生徒相互)の授業を展開する。各教科の特性に応じて、小型ホワイトボードを使用した言語活動やグループ討議等を取り入れた授業づくりを行うなど、言語活動を充実させる。授業の中でアクティブ・ラーニングを充実させることで、生徒が能動的に課題を発見し思考し解決しようとする力を養う。

・12 月に第 2 回授業評価アンケートを実施し、指導力の向上や授業の改善を図る。

学校経営目標				
達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部等
3 きめ細かな指導により、生徒の進路第一希望を実現させる。				
①組織的な進路指導体制により、生徒の進路第一希望が実現している。	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導計画(大崎海星高校ロードマップ)に基づき、計画的・組織的な進路指導を行う。 ・進路検討会議を実施し、全教職員が全生徒の指導方針を共有する。 ・公営塾との連携を密にし、学校と公営塾が一体となった指導体制を確立する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導計画を全教職員、全生徒に配付し、共通認識を図った。 ・7月に進路検討会議を開き、全学年の生徒の進路希望を把握し、指導方針を決定した。 ・公営塾スタッフとの連携を週に1回行うようにしている。 	進路指導部 公営塾担当者

【評価結果の分析】

・昨年度末までに大崎海星高校進路指導計画(ロードマップ)を作成し、今年度教職員・生徒全員に配付した。また、刷新したホームページにも掲載している。このことにより、教職員・生徒の共通認識に立った進路指導が推進できた。

・7月の期末考査時に進路検討会議を実施し、3年生は進路希望と模試結果、1・2年生は進路希望と選択科目について管理職を始め、各担任、各教科で共有し、以後の指導に役立てることができた。

・公営塾スタッフとの連携を毎週行っている。管理職、国語・数学・英語の教員3名、公営塾スタッフ2名が参加している。学校での指導内容、塾での出席状況・指導内容等について情報が共有できている。

【今後の改善方策】

・ロードマップについて、1学期末にアンケートを行った。「ロードマップの計画通り授業や教科指導が実施できた。」「生徒に夏季補習の参加を促す指導ができた。」の項目の肯定的評価の割合は約80%であった。一方「放課後または土曜日の補習が実施できた。」「夏季休業中の目標達成のための指導を行っている。」の項目の肯定的評価の割合は、他の項目より低くなっており、教職員、生徒への周知や実施方法を検討する必要がある。

・進路検討会議における生徒の情報が少ないため、今後は模試受験者を増やすなどの取組が必要である。

・公営塾スタッフとのミーティングは、有効性の高いものとなっているが、担任が加わることで更に意義深いものとなる。今後は担任が参加できるような体制を検討する必要がある。

学校経営目標				
達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部等
4 生徒指導を充実させ自己指導能力を育成するとともに、道徳教育、特に人間としての在り方生き方に関する教育を充実させ、豊かな心を育む。				
①生徒に基本的な生活習慣を身に付けさせ、自己指導能力を高めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の三機能を生かした教育活動を展開し、生徒の自己指導能力を高める取組を実践する。 ・SHR、授業におけるベルスタートを徹底させる。 ・日々の遅刻結果を生徒に示すとともに、遅刻の多い生徒に対する指導を強化する。 ・生徒指導部による登校指導を継続する。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・ベルスタートは意識の差が大きい。また、教室移動の授業の際は、守れていない生徒が目立つ。 ・遅刻の多い生徒には指導を行っているが、改善が見られていない。継続的な指導を行っていく。 	生徒指導部

	<p>②生徒に人間としての在り方生き方を考えさせ、豊かな心を育てている。</p>	<p>・学校生活や日常生活におけるマナー指導を徹底する。 ・地域や同窓会の社会人を講師とした講演会を複数回行う。 ・地域と協働した校外清掃を実施する。</p>	<p>A</p>	<p>・社会人講話を毎学期複数回実施できている。 ・大崎上島クリーン大作戦では、高校生として小中学生をまとめながら役割を果たすことができた。</p>	<p>生徒指導部</p>
--	--	---	----------	---	--------------

【評価結果の分析】

- ・ベルスタートは教室の移動があるときに守れていない生徒がいる。学校全体として足並みをそろえて指導をしたい。
- ・特定の生徒が遅刻を繰り返している。一定の回数遅刻をした生徒に対して、遅刻指導を行っている。粘り強く指導が必要である。
- ・制服の着用について、身だしなみ指導の回数を増やし、継続的に指導を続けており効果が上がっている。一部の課題のある生徒に対しては、粘り強く指導する必要がある。

【今後の改善方策】

- ・基本的生活習慣を身に付けさせ、自己指導能力を高めるために、
- ①ベルスタートについて、生徒集会を通じて職員・生徒で再確認・再認識を図り徹底する。
- ②遅刻について、0をめざし取り組みを継続する。
- ・生徒に人間としての在り方生き方を考えさせ、豊かな心を育てていくために、
- ①生徒会執行部主体のあいさつ運動を継続して行う。学校内だけでなく、校外でも気持ちの良いあいさつをしていくように声かけをする。
- ②具体的に、学校内外での生活の仕方(行動)・服装・挨拶等の指導を行う。

平成 27 年度自己評価シート(中間評価まとめ)

校番	121	学校名	広島県立大崎海星高等学校	校長氏名	大林秀則	全・定・通	本・分
----	-----	-----	--------------	------	------	-------	-----

1 評価結果の分析

(1) 学校の魅力化を推進し、地域の期待に応える教育活動を展開するとともに、学校の情報を積極的に発信する。

・6月に行われた中学校の運動会において本校のソーラン部が演舞を披露した。生徒アンケート「ソーラン部が運動会で演舞したことで盛り上がった」の項目の肯定的評価の割合は80%、「大崎上島中学校と大崎海星高校の連携が強まった」の項目の肯定的評価の割合は80%であった。また、9月に実施した本校の体育祭に中学生が参加した。生徒アンケートには「ものすごく楽しかったですし、面白い競技でしたので海星高校に入学したらまたやりたいです。」「自分の運動会以来でみんなについていくのに必死だったけど楽しかった。」など肯定的な感想がほとんどであった。

・6月に実施した本校の文化祭では、中学校と本校の茶道部が共同でお茶席を設けた。実施後のアンケートには、中学生と高校生が協力してお茶を出し入れたことで、とても楽しく参加することができたと回答している。

・5月に中学校教員による高1生へのカウンセリングを実施した。生徒アンケート「カウンセリングは、あなたにとって有意義でしたか」の肯定的割合は95%であった。

・中学校への数学・英語の出前授業は、「分からないところがあっても、ゆっくり確実に教えてくれるところが本当に助かります。」等肯定的な評価が大半である。生徒アンケート「授業を受けて、自分からすすんで勉強しようという意欲が高まった。」の項目の肯定的評価の割合は、数学68%、英語は59%、「授業を受けて、大崎海星高校で学びたいという意欲が高まった。」の項目の肯定的評価の割合は、数学76%、英語は72%であった。

・大崎海星高校魅力化推進チームは、9月末現在で18回のミーティングを行い、学校の魅力化に向けた34の施策の実施に向けて、内容の検討や進捗状況の報告を行った。

・「大崎上島学」の内容づくりに向けて、今年度より和太鼓体験(1年)、海洋体験(1・2年)を実施した。生徒アンケートにおける肯定的評価の割合は、「和太鼓体験を通して地域の伝統文化のすばらしさを感じることができた。」の項目では76.9%、「海洋体験を通して地域の自然のすばらしさを体感することができた。」の項目では86.8%であった。

・海星だよりについては、4月号、5月号、6月号、7・8月号、9月号を発行した。月によっては行事の数に差があるため、毎月の発行には至っていないが計画的に実施できている。

・今年度HPを刷新した。更新回数が45回となり、目標値を大きく上回った。また、「HP更新週間」を設定し、部活動を中心に年3回の更新を行うようにした。また、公営塾や全国募集等学校の魅力化に向けた取組についてもアップしているため、更新回数が目標値を大幅に上回っている。

・今年度の学校案内は昨年度3学期に1,000部作成し、4月以降随時配布している。大崎上島中学校については、5月20日進路説明会時に中学校教職員、3年生及び保護者に配布した。また、7月下旬には近隣の中学校である竹原中学校、吉名中学校、安芸津中学校、忠海中学校、豊浜中学校を訪問し、学校案内と公営塾パンフレットを配布し、PRを行った。その訪問により、現在のところ竹原中学校では個別の進路説明会の実施に至っている。

・文化祭・体育祭の周知も含め、学校の取組を島民に知ってもらう目的で、「海星だより」特別便を、6月・9月に町広報に差し込み、島内全戸に配布した。文化祭・体育祭のアンケートでもその効果が大いことがわかった。また、安芸津港、竹原道の駅にも置いてもらい、島外の方にも情報を発信している。

・公営塾「神峰学舎」の開所式が、テレビ2社、新聞1社で取り上げられるとともに、その後の継続的な取材につながり、戦略的な情報発信を図ることができた。また、本校のHP上でも最新の情報を早期にアップすることにより、リアルタイムな情報提供に努めた。全国募集についてもHPに特設コーナーを作成し、関係者の協力を得ながら、あらゆる方法での情報拡散を行っている。

(2) 特別支援教育の視点に立った組織的な授業づくりを推進し、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、知識を活用し協働して新たな価値を生み出そうとする意欲を持つ生徒を育成する。

・7月に実施した授業評価アンケートにおける肯定的評価の割合は、「授業では、「本時の目標」が板書されている。」の項目では91%、「授業では、「振り返り」の時間がある。」の項目では85%であった。また、「授業を受けて、やればできるという意欲が高まった。」の項目では76%であり、平成27年度の目標値を上回っている。

・今年度は教育センターのサテライト講座を活用し、生徒指導の三機能を生かした授業づくりについて、研究・実践した。6月11日には「生徒指導の三機能を生かした授業づくり」を研究テーマとした公開研究授業を実施した。

(3) きめ細かな指導により、生徒の進路第一希望を実現させる。

・昨年度末までに大崎海星高校進路指導計画(ロードマップ)を作成し、今年度教職員・生徒全員に配付した。また、刷新したホームページにも掲載している。このことにより、教職員・生徒の共通認識に立った進路指導が推進できた。

・7月の期末考査時に進路検討会議を実施し、3年生は進路希望と模試結果、1・2年生は進路希望と選択科目について管理職を始め、各担任、

各教科で共有し、以後の指導に役立てることができた。

・公営塾スタッフとの連携を毎週行っている。管理職、国語・数学・英語の教員3名、公営塾スタッフ2名が参加している。学校での指導内容、塾での出席状況・指導内容等について情報が共有できている。

(4) 生徒指導を充実させ自己指導能力を育成するとともに、道徳教育、特に人間としての在り方生き方に関する教育を充実させ、豊かな心を育む。

・ベルスタートは教室の移動があるときに守れていない生徒がいる。学校全体として足並みをそろえて指導をしたい。

・特定の生徒が遅刻を繰り返している。一定の回数遅刻をした生徒に対して、遅刻指導を行っている。粘り強く指導が必要である。

・制服の着用について、身だしなみ指導の回数を増やし、継続的に指導を続けており効果が上がっている。一部の課題のある生徒に対しては、粘り強く指導する必要がある。

2 今後の改善方策

(1) 学校の魅力化を推進し、地域の期待に応える教育活動を展開するとともに、学校の情報を積極的に発信する。

・和太鼓部の演奏を11月14日(土)に開催される中学校の文化祭で披露する予定である。中学生にとって大崎海星高校が身近な存在と感じられるように取組を進める。

・10月には高校教員による中3生への進路相談を実施する。高等学校の視点から中学校の学習の大切さを理解させ、中学生の学習意欲を高めるとともに、高校卒業後の進路をアドバイスすることで、将来を見通した進路指導を行う。

・学校の魅力化に向けた34の施策は順調に実施できているが、魅力化推進チームミーティングで施策の課題を明らかにし次年度につなげる。

・平成28年度入学者から、総合的な学習の時間を各学年2単位とし、そのうち1単位を「大崎上島学」として展開する予定である。内容づくりに向けて、先進校の取組を参考にしながら本校独自の教育内容をつくる。

・海星だよりを出来るだけ翌月の早い時期に作成、配布し、よりリアルタイムな情報を発信したい。その為にも各月の行事を確認し、生徒の活動写真や感想などを集約できるようにする。

・HPの更新回数は年度当初の目標値を上回ったが、これからも行事や生徒の活動がある度に更新を続けていく。ネットワークの管理、分掌の所掌業務の見直しも含め、効率的な情報発信に向けた校内の組織体制を再考する必要がある。今後は来年度のことを見据えてHP更新の引き継ぎを行い、複数名がこの作業に関われる体制作りが必要である。

・今後全国募集に向けて、より多くの方に学校の魅力を知ってもらうために、情報発信の方法を検討する必要がある。また、関西圏、首都圏以外においても、ニーズがあると思われる地域をしばり、焦点化した生徒募集を行っていく。

・町広報を通じた情報発信に一定の成果はあったが、町内放送の活用も含め、より有効性の高い方法を検討する。

(2) 特別支援教育の視点に立った組織的な授業づくりを推進し、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、知識を活用し協働して新たな価値を生み出そうとする意欲を持つ生徒を育成する。

・一方的な講義型の授業展開ではなく、双方向型(教師と生徒、生徒相互)の授業を展開する。各教科の特性に応じて、小型ホワイトボードを使用した言語活動やグループ討議等を取り入れた授業づくりを行うなど、言語活動を充実させる。授業の中でアクティブ・ラーニングを充実させることで、生徒が能動的に課題を発見し思考し解決しようとする力を養う。

・12月に第2回授業評価アンケートを実施し、指導力の向上や授業の改善を図る。

(3) きめ細かな指導により、生徒の進路第一希望を実現させる。

・ロードマップについて、1学期末にアンケートを行った。「ロードマップの計画通り授業や教科指導が実施できた。」「生徒に夏季補習の参加を促す指導ができた。」の項目の肯定的評価の割合は約80%であった。一方「放課後または土曜日の補習が実施できた。」「夏季休業中の目標達成のための指導を行っている。」の項目の肯定的評価の割合は、他の項目より低くなっており、教職員、生徒への周知や実施方法を検討する必要がある。

・進路検討会議における生徒の情報が少ないため、今後は模試受験者を増やすなどの取組が必要である。

・公営塾スタッフとのミーティングは、有効性の高いものとなっているが、担任が加わることで更に意義深いものとなる。今後は担任が参加できるような体制を検討する必要がある。

(4) 生徒指導を充実させ自己指導能力を育成するとともに、道徳教育、特に人間としての在り方生き方に関する教育を充実させ、豊かな心を育む。

・基本的生活習慣を身に付けさせ、自己指導能力を高めるために、

①ベルスタートについて、生徒集会を通じて職員・生徒で再確認・再認識を図り徹底する。

②遅刻について、0をめざし取り組みを継続する。

・生徒に人間としての在り方生き方を考えさせ、豊かな心を育ていくために、

- ①生徒会執行部主体のあいさつ運動を継続して行う。学校内だけでなく、校外でも気持ちの良いあいさつをしていくように声かけをする。
- ②具体的に、学校内外での生活の仕方(行動)・服装・挨拶等の指導を行う。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入する。)

- ・中高連携は、学校行事(体育祭・文化祭等)における生徒の交流、部活動における交流(合同練習等)、相互の教育相談及び授業参観を実施してきた。特に、学校行事は今まで以上に中学校と高等学校が合同で開催できる内容が増えるように協議を重ねる。
- ・平成 28 年度から、各学年1単位を付与し独立した科目として展開できるような計画を作成する。先進校の取組を参考にしながら、小中高の系統性を考慮した「大崎上島学」の Grant デザインを確立し、教育内容の魅力化を図る。
- ・教育センターのサテライト講座を活用し、生徒指導の三機能を生かした授業づくりについて取組を進めている。生徒の自己肯定感を高める授業実践が定着し、評価・改善が積極的に行われることにより、学校の授業文化となるように取り組む。また、アクティブ・ラーニングや ICE モデルを使った指導案を作成し、「主体的学び」を促す教育活動としての「課題発見・解決学習」を推進していく。
- ・広報活動では、HP の更新回数の増加、学校案内(パンフレット)の配布、町広報の活用、マスコミへの情報提供等、あらゆる情報発信の取組を行ってきた。今までの取組を継続・発展させるとともに、次年度より大崎上島に民泊する中学生に対して、本校の魅力をアピールする機会をつくっていく。
- ・生徒の進路第一希望実現のためには、早期からの計画的な指導が必要である。進路指導計画(大崎海星高校ロードマップ)を職員、生徒に周知し、計画的・組織的な進路指導を行う。模試受験者を増加させ、目標に向かって継続的な学習を指導する。
- ・公営塾スタッフとのミーティングに、教科担任だけでなく担任が参加できるような体制を検討する。
- ・生徒指導の三機能を生かした教育活動を展開し、生徒の自己指導能力を高める取組を実践する。SHR、授業におけるベルスタートを徹底する。遅刻の多い生徒に対する指導を継続的に取り組む。

平成 27 年度学校関係者評価シート(中間評価)

平成 27 年 10 月 26 日

校番	121	学校名	広島県立大崎海星高等学校	校長氏名	大林 秀則	全・定・通	本・分
----	-----	-----	--------------	------	-------	-------	-----

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・SWOT 分析や基礎データをもとに、適切な設定がなされている。 ・重点化が図られている。 ・適切である。魅力ある学校づくりに取り組んでいただきたい。
計画の進捗状況の評価の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・数値目標に対する達成度や現在の状況が、数値を用いて具体的に示されている。それらに対する評価も適切である。 ・3①はもう少しデータがあった方が良い。例えば公営塾と連携して良かった点、成果など具体的に示していただきたい。
目標達成に向けた取組の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各目標に対しての計画的・組織的な取組がなされている。 ・固定化された状況の打破を期待する。 ・教職員一丸となっていることに取り組んでいる。
評価結果の分析の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・詳細な分析がなされている。また現状を詳しく示されている。 ・4①のベルスタートと遅刻の取組は「C」となっているが、もっと別の視点から生徒指導の三機能の成果が見えるものにしていただきたい。
今後の改善方策の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な方策が示されている。 ・遅刻などは決まった生徒だと思われる。粘り強く指導をしていただきたい。 ・授業の中で生徒の活動をさせるために、先生の話が減らすことができるかが課題である。
総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての教職員がよく頑張っている。少しずつでも結果が出れば、海星高校に対する見方も変わってくる。 ・地域・家庭と連携して、目標達成に向けてさらに取り組んでいていただきたい。また、海星高校の魅力を多くの人に知ってもらうための取組を加えていただきたい。評価委員会開催時に授業観察等を入れても良いのではないか。 ・全国募集で1人でも生徒が集まることを願っている。これからも魅力ある学校となるように取り組んでいただきたい。